

全国区となった隆盛期

競馬ブームの到来で、一躍、全国に知れ渡ることになったばんえい競馬。地方競馬の中でも群を抜く売り上げ上昇率を誇るまでに成長しました。



華やかにし頃の満員のスタンド。



大井競馬競走番組表

アトラクションご案内
 北海道ばんえい競馬(秋組レース)を応援
 して応援いたします。馬力と運命をともに
 楽しむお楽しみください。
 【競馬観戦は是非お楽しみください】

とき 毎月19日(土)レース終了後
 ところ 大井競馬場

北海道ばんえい競馬観戦表

馬番	馬名	性別	年齢	調教師	騎手	出走
1	エドワード	牡	3	佐藤 隆夫	佐藤 隆夫	1
2	ヒラヤシ	牡	3	佐藤 隆夫	佐藤 隆夫	2
3	コウ	牡	3	佐藤 隆夫	佐藤 隆夫	3
4	メロウ	牡	3	佐藤 隆夫	佐藤 隆夫	4
5	アトラス	牡	3	佐藤 隆夫	佐藤 隆夫	5
6	アトラス	牡	3	佐藤 隆夫	佐藤 隆夫	6

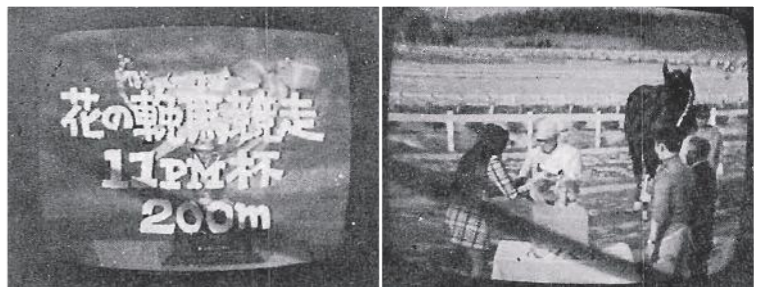
大成功に終わった東京大井競馬場でのばんえいアトラクション。障害を越えた馬たちをカメラマンが追うと、観客もつられるように一斉に走路になだれ込み、場内は異様な熱気に包まれた。

マスコミの熱い注目を集め 家族で楽しめるレジャーに

昭和四十年代後半から五十年代前半にかけて、ばんえい競馬は未曾有の隆盛期を迎えます。日本経済の好況を背景に、競馬ブームが到来。ばんえい競馬も平地競馬に劣らぬ人気を集め、一部の人が楽しむギャンブルから、家族で観戦する健全な大衆娯楽へと姿を変えました。

それまで北海道民のレジャーだったばんえい競馬が、マスコミに度々取り上げられるようになると、その名が全国に知られていきます。深夜の人気テレビ番組「11PM(イレブンピーエム)」では、昭和四十六年以来、約十年にわたって年に一度の特集が組まれ、特別レース「11PM杯」を放映。ムツゴロウこと畑正憲さんと歌手の芹洋子さんが、ばん馬の馬主となったニュースも話題を集めました。

昭和四十八年には、東京大井競馬場で二日間に渡って初のばんえいアトラクションが開催され、大成功を収めます。重さ一トンの迫るばん馬六頭が入場すると、大入り満員のスタンドから、「お



深夜の人気テレビ番組「11PM」は度々ばんえい競馬を取り上げ、年に一度の「11PM杯」が恒例レースに。写真は岩見沢で開催された第2回「11PM杯」放映シーンより。

施設やサービスの向上で 売り上げ記録を次々更新

昭和四十九年に帯広、北見の競馬場が新築オープン。翌年、旭川競馬場が移転新設して生まれ変わります。施設の充実に伴い開催日数も増え、昭和四十九年度には年間十七回一〇二日を開催しました。

ばんえい競馬は全国の地方競馬の中でもトップクラスの売り上げ上昇率を示し、次々に記録を更新。昭和四十八年度、念願の売り上げ百億円を突破したのを皮切りに、

「っ！」というどよめきの声が上がりました。模擬レースでは、走るばん馬を追いかけ観客が一斉に走路になだれ込み、走り終わった馬を取り囲むという熱狂ぶりでした。

また、同年には倉本聰さん脚本のテレビドラマ『ばんえい』が放映され、その年の芸術祭優秀賞を受賞。「ばんえい」の四文字が深く刻まれた一年でした。

二年後の昭和五十年年度には売り上げ上昇率一三〇パーセントという快挙を成し遂げます。これは、全国第一位という記念すべき記録でした。さらに昭和五十二年年度には一日五億円、年間二百億円を、その翌年には一レース一億円の目標を達成。折からのオイルショックの影響を受けて地方競馬全体が低迷する中、ばんえい競馬は女性や子どもも楽しめるようにと、ファンサービスや施設の改善に努めた甲斐があり、不況知らずの快進撃を続けていったのです。

人馬、丸ごと大移動 4市でのジプシー生活



トラックに愛馬と生活用具を積み込んでの大移動。(写真/中西関松)

旭川、帯広、北見、岩見沢の4市を巡回して開催されていたばんえい競馬。関係者は競馬場から競馬場へと移動していました。シーズンの始まりともなれば、道内の津々浦々、そして青森や秋田からも馬たちがやってきました。馬約700頭、調教師、騎手、きゅう務員、さらにその家族を合わせ約300人が集結すると、きゅう舎はたちまち膨れ上がります。

その地のレースが終われば、次の開催地へ。馬のかいばや馬具のみならず、家具や電化製品、衣類、食料など、生活用品一切合財を大型トラックに積み込んで、人馬の大移動が始まります。移動日は4日ほどですが、皆、手馴れたもの。それでも雨や吹雪の日の移動は大変で、帯広と旭川、岩見沢間には狩勝峠が、北見からは石北峠が控えています。黙々と旅する人馬とともに職員たちも一斉に移動。こうした関係者全員の「引越」が年に何度も繰り返されていました。